

環境活動レポート

タカヤナギ ECOな取り組み

エコアクション21



株式会社タカヤナギ

平成 29 年度

(平成 29 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日)

作成日 平成 30 年 4 月 1 日

目 次

1.	環境方針	1
2.	業務内容	2
3.	環境経営システムの運営体制	6
4.	環境目標とその実績・評価	7
1.	環境活動計画の内容	10
2.	環境活動の取組結果の評価	11
5.	環境上の緊急事態の想定結果及びその対応策	13
6.	環境関連法規の取りまとめ及び遵守評価	15
7.	代表者による総合評価と見直し	16
8.	外部からの苦情等の受付結果	17

1. 環 境 方 針

基本理念

当社は、特別管理産業廃棄物・産業廃棄物・一般廃棄物の収集運搬を行っており、資源の有効活用及びリサイクル化を目標とし、かけがえのない地球環境保全に貢献することを使命とし、次の目標に向けて最善の努力をもって廃棄物収集運搬業・運送業を行ってまいります。

行動指針

当社は、基本理念の実現に向けて以下のことを行動指針とします。

安全運転に心がけ、アイドリングストップ・無事故無違反を目標とします。

循環型社会の構築に向けてリサイクル推進、分別の徹底、焼却率の低下に貢献・協力できる会社を目指します。

省エネルギー、グリーン購入に勤めます。

関係法令の遵守、近隣・地域の環境保全、ならびに倉庫内の環境衛生に最善の努力をします。

節水を心掛けるよう勤めます。

この環境方針を全社員に周知徹底させ、環境への意識高揚を図るとともに、お客様、地域住民の方々、その他一般の方の要望に応じて公開します。

平成 29 年 4 月 1 日

株式会社 タカヤナギ

代表取締役 高柳 浩美

2. 業務内容

1) 事業者及び代表者

株式会社タカヤナギ 代表取締役 高柳 浩美

2) 所在地

本社：静岡県三島市文教町2丁目15番36号

営業所：静岡県沼津市西間門14-1

環境管理責任者及び担当者連絡先

責任者 常務取締役 平田 豪

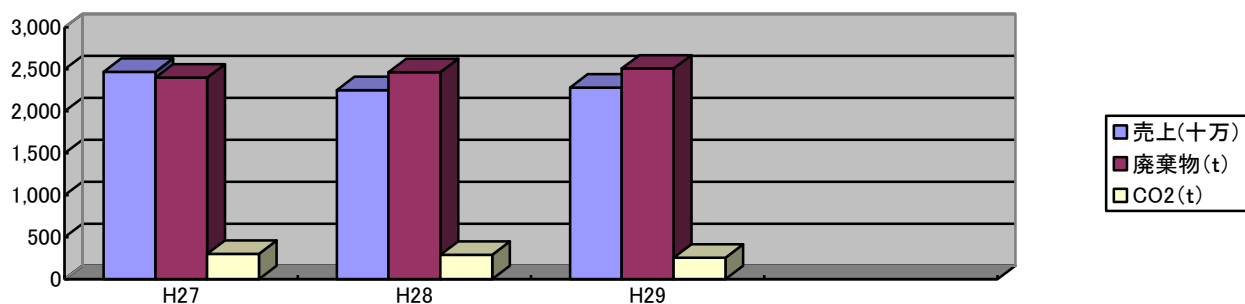
連絡先 TEL:055-922-6230 FAX:055-922-6231

3) 事業内容

「沼津営業所」一般廃棄物収集運搬・産業廃棄物収集運搬・特別管理産業廃棄物収集運搬
一般貨物自動車運送・軽貨物自動車運送

4) 事業の規模 3月決算

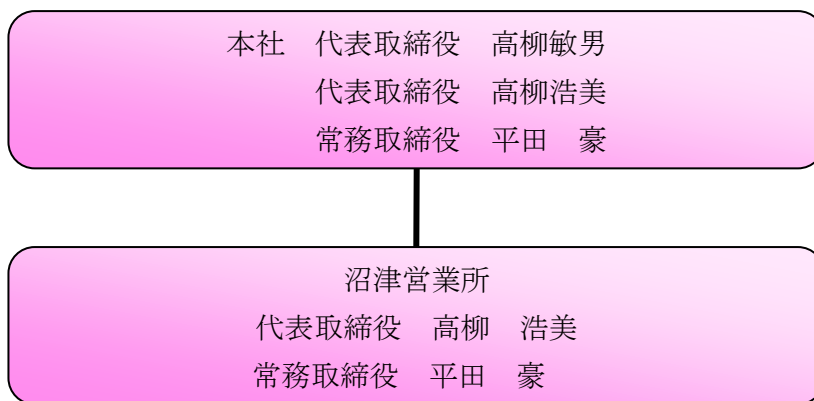
活動規模	単位	27年度	28年度	29年度
廃棄物関係事業	m ³	31248	35887.8	33539.1
	t	2400.3	2467.1	2509.6
売上高	千円	247,083	225,256	228,414
従業員	人	12	12	15
床面積	m ²	1393.24	1393.24	1393.24
保有車両	台	14	14	15



情報公開項目

法人名 株式会社タカヤナギ 代表者 代表取締役 高柳 浩美
 資本金 2,100万円 設立 1988年10月12日 売上高 上記参照

組織図



許可の内容

産業廃棄物収集運搬業

	静岡県	愛知県	神奈川県	東京都
許可番号	02212000544	02300000544	01402000544	13-00-000544
許可年月日	H24. 9. 29	H28. 4. 25	H21. 7. 17	H26. 12. 16
許可有効期限	H31. 9. 28	H33. 4. 24	H31. 7. 16	H31. 12. 15
事業の範囲	汚泥、廃油、廃酸、廃アルカリ、廃プラスチック類、紙くず、木くず、動植物性残渣、金属くず、ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず	同左	廃油、廃酸、廃アルカリ、廃プラスチック類、金属くず、ガラスくず	廃油、廃酸、廃アルカリ、廃プラスチック類、ガラス

特別管理産業廃棄物収集運搬業

	静岡県	愛知県	神奈川県	東京都
許可番号	02262000544	02350000544	01452000544	13-51-000544
許可年月日	H25. 8. 2	H28. 4. 25	H21. 7. 17	H26. 12. 16
許可有効期限	H32. 8. 1	H33. 4. 24	H31. 7. 16	H31. 12. 15
事業の範囲	感染性廃棄物、引火性廃油、腐食性廃酸、腐食性アルカリ、特定有害廃油、特定有害汚泥、特定有害廃酸、特定有害廃アルカリ等 48 品目	同左	感染性廃棄物、廃油、廃酸、廃アルカリ 揮発油類、強酸、強アルカリ	感染性廃棄物

一般廃棄物収集運搬業

許可番号	許可年月日	有効期限	事業の範囲
29326	H29. 10. 5	H31. 10. 4	一般廃棄物の収集運搬

イ. 施設等の状況

収集運搬車輛	形状	台数
4 t 車	バン	5 台

3 t 車	バン	3 台
2 t 車	バン、塵芥車	5 台、1 台
1.5 t 車	キャブオーバ	1 台
軽自動車	箱	1 台

積替え保管施設 該当有

種類	品目	保管上限 (m ³)	面積 (m ²)
特別管理産業廃棄物	感染性廃棄物	11.12	922.99
産業廃棄物	廃プラスチック類	3.52	922.99
	ガラスくず	0.8	922.99
	廃酸	0.18	922.99
	廃アルカリ	0.18	922.99

ウ. 処理実績

収集運搬実績

		実績 (t)	実績 (m ³)
一般廃棄物	可燃、不燃	260	2,340
産業廃棄物	汚泥	0.004	0.004
	廃油	0.144	0.144
	廃酸	1.458	1.458
	廃アルカリ	14.236	14.236
	廃プラスチック類	352.332	8884.7
	紙くず		
	木くず		
	金属くず	102.84	1020.84
	動植物性残渣		
	ガラ・コン	5	5
特別管理 産業廃棄物	感染性廃棄物	1772.653	21271.74
	引火性廃油	0.954	0.954
	腐食性廃酸	0.025	0.025

エ. 廃棄物処理料金

廃棄物の種類により異なってくるので、ご連絡をいただきたい。

オ. 廃棄物処理フロー

㈱タカヤナギ収集運搬フロー図

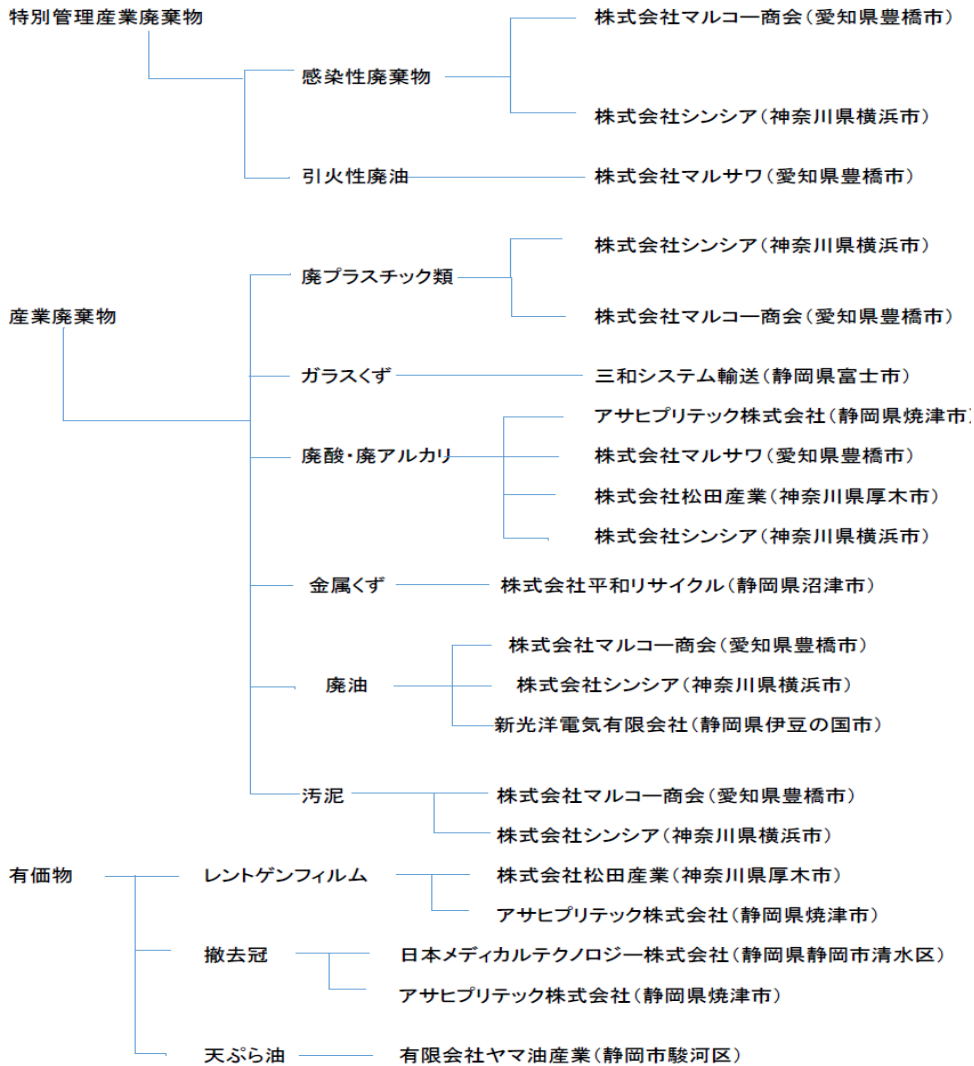
直行



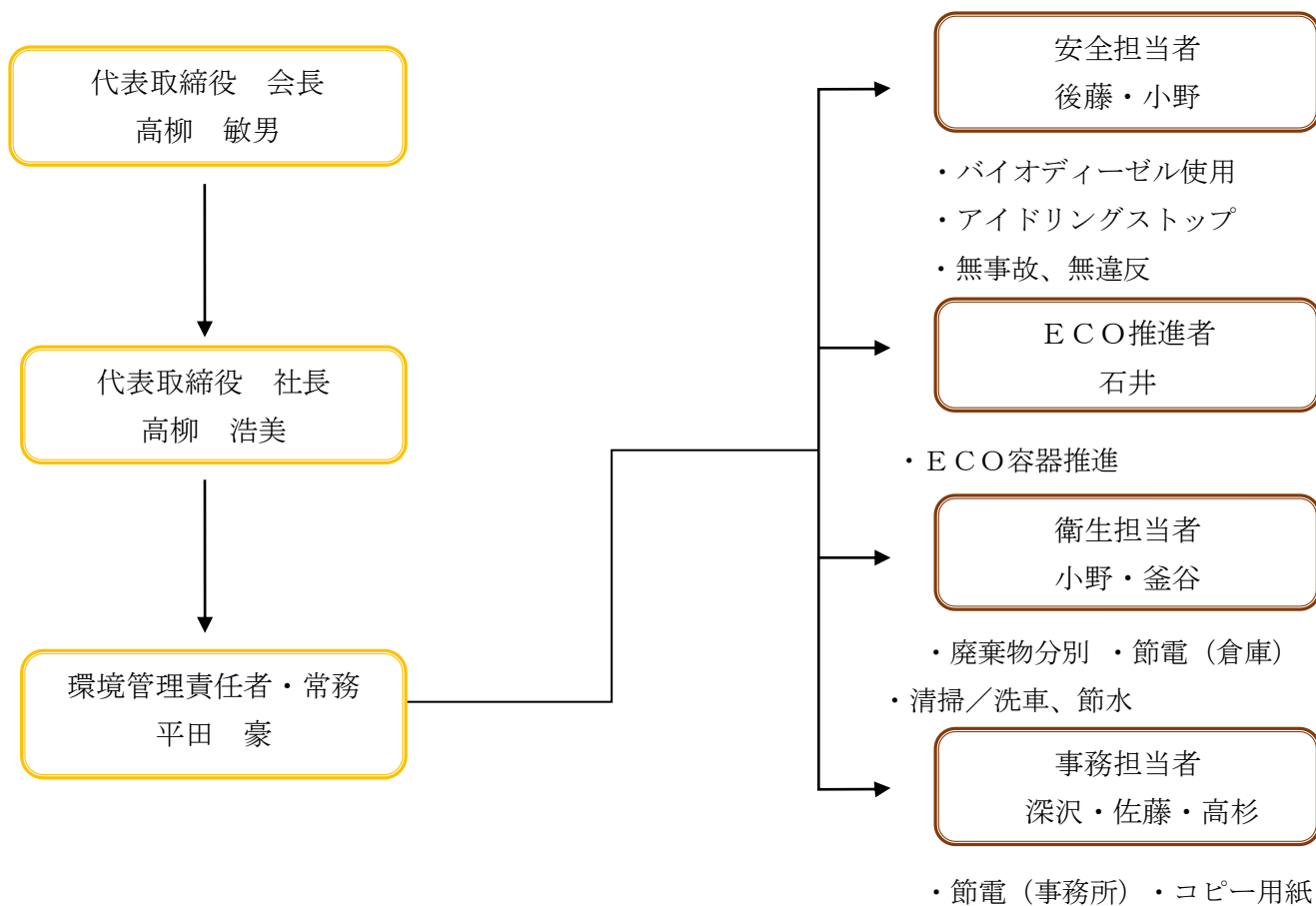
積替え保管有



株式会社タカヤナギ 廃棄物処理フロー図



3. 環境経営システムの運営体制



所属	担当者	役割
	代表取締役 社長	・環境管理責任者及びその他の責任者の任命をする。・環境方針を決定する。・エコアクション21の総合評価と方針の見直しをする。・関係法令順守に関し、責任を持つ。
	常務・環境管理責任者	エコアクション21に係る事項の決定、報告場所。統括する。
営業所	常務・環境管理担当者	営業所各担当者（安全担当者、衛生担当者、ECO推進者、事務担当者）を指揮する。
	安全担当者	決定事項に基づき、車両に係る事項を統括する。
	ECO推進者	決定事項に基づき、発注に係る事項を統括する。
	衛生担当者	決定事項に基づき、清掃に係る事項を統括する。
	事務担当者	決定事項に基づき、事務に係る事項を統括する。

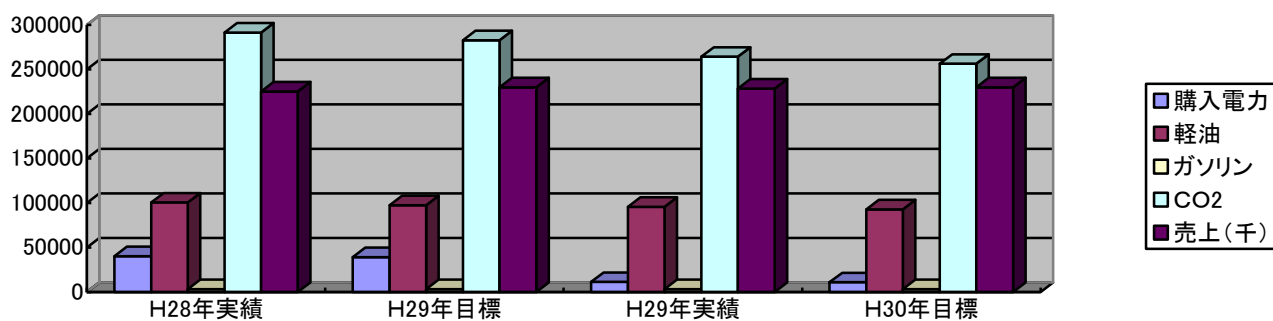
4. 環境目標とその実績

取組項目	目標年度	環境目標	部門別目標	中長期目標(対29年度)
二酸化炭素排出抑制	平成30年度	平成29年度比総量で排出量を3%削減する	・電気使用量を3%削減 ・使用燃料を1.5%削減	平成30年度 排出量3%削減 平成31年度 排出量3%削減 平成32年度 排出量3%削減
水量の削減	平成30年度	平成29年度比総量で総排水量3%削減する	・排水量の3%削減	平成30年度 排出量3%削減 平成31年度 排出量6%削減 平成32年度 排出量9%削減
廃棄物の排出量の抑制	平成30年度	平成29年度比総量で排出量を3%削減する	・一般廃棄物排出量を7%削減 リサイクル率を5%向上	平成30年度 排出量3%削減 平成31年度 排出量6%削減 平成32年度 排出量9%削減
環境意識の向上	平成30年度	グリーン購入	コピー用紙、業務用品全般優先購入	

1) 二酸化炭素排出抑制

実績 平成28年度を基準年度とし中期目標（対28年度、3%削減）とした時、二酸化炭素排出量は9.3%減少した。また購入電力は工場を廃止した為72.1%減少したが、営業所は14.1%増加してしまった。購入電力と化石燃料の使用量を表にまとめる。

	年度	H28年度基準年度		H29年度目標		H29年度実績		評価	H30年度目標		
	部門	kwh	L	kg-CO2	kwh	L	kg-CO2		kwh	L	kg-CO2
購入電力(kwh) 東電実排出係数 0.50	営業所	9,845		4,922	9,549	4,774	11,241	5,620	×	10,903	5,451
	工場	30,467		15,233	29,552	14,776					
軽油(%) 実排出係数 2.624	営業所	100,570		263,895	97,552	255,978	95,722	251,174	○	92,850	243,638
	工場										
ガソリン(%) 実排出係数 2.322	営業所	3,232		7,504	3,135	7,278	3,225	7,488	△	3,128	7,263
	工場										
合計CO2排出量 (kg-CO2)	営業所			276,321		268,030		264,282	○		256,353
	工場			15,233		14,776					



化石燃料については、軽油で4.8%減少、ガソリンも0.2%減少した。
売上がH28年に比べ約1.4%上がったが工場を廃止した為CO2は下がった。

2) 排水量の削減

実績 平成29年度の総排水量は、128 m³です。平成28年度と比較すると75%の減少です。
水道使用量と総排水量を表にまとめる。

		H28年度 基準年度	H29年度 目標	H29年度 実績	評価	H30年度 目標
上水(m ³) 総排水量	営業所	164	159	128	○	124.16
	工場	256				
	全社	420	159	128	○	128

これは、営業所の洗車時にこまめに水を止めたり、工場の中間処理の廃止をした為である。来年度も環境を美しく保つ為の努力と、節水の両方のバランスを考えたい。

3) 廃棄物の排出量の抑制

実績 平成29年度の廃棄物排出量は320kgです。平成28年度(基準年度)と比較すると7.2%の減少になる。社内で分別を徹底し、廃棄物を抑制しリサイクルにまわした為である。また以前同様、営業所より排出されるペットボトルなど、キャップと本体を分別してリサイクルしている。キャップについては「世界の子どもにワクチンを」に協賛し400個で10円のワクチンを提供している。

		H28年度 基準年度	H29年度 目標	H29年度 実績	評価	H30年度 目標	
排出量 (t)	営業所	0.345	0.34	0.32	○	0.31	
	工場	廃プラ	22.4				
		グリセリン	0				

4) 環境意識の向上 (評価: ○)

環境についてより多くの知識と身近なことから ECO 活動を進んで取組むこと、グリーン購入の推進とともにグリーン商品を販売していく。

ECO カーの社用車

昨年に車検満了の社用車を ECO カーに乗換。燃費がよくなりガソリンが H28 年度に比べ 0.2% 減少した。この調子で営業で社用車を使う時は ECO 運転に心掛け、ガソリンの節約に繋げ、CO2 の削減に努めたい。



車両へのエコアクション 21 ロゴマークの添付

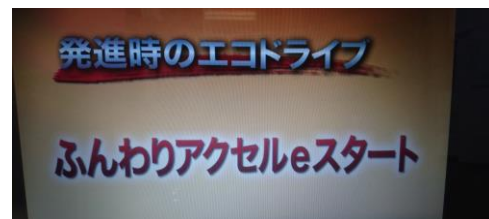
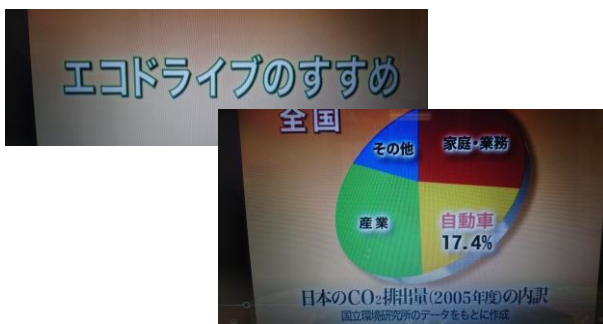
運転中のアイドリングストップ並びにエコ運転の意識をより向上するために、各車両にエコアク



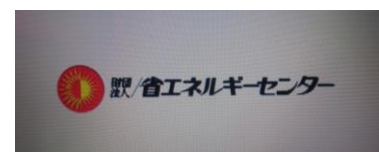
ションのロゴをつけて、常に意識するように改善をした。またそれと同時に弊社が環境を意識していることを知ってもらいたいのでロゴマークを付けた。

エコドライブ動画による教育

ドライバーのエコドライブの意識をより向上するために省エネルギーセンターのエコドライブ動画を活用した。



普段の運転の癖や個人の性格 (運転) を改めて見直すことができ、またディスカッション等もできた為、動画による教育を続けていきたい。



4-1 主な環境活動計画の内容

営業所

	内容	管理責任者	半年 9月	1年間 3月
購入電力	使っていないパソコンの電源を落とす。	事務担当者	○	△
	事務所内に人がいなくなるときは、照明を落とす。	事務担当者	○	○
	冷暖房の設定温度を確実に守る。	事務担当者	○	×
	倉庫内作業が終わったときは、照明を落とす。	衛生担当者	○	○
	トイレの電気をその都度落とす。	衛生担当者	○	○
化石燃料	アイドリングストップに心がけ、アイドリング時間を記録する。	安全担当者	○	○
	無事故無違反を心がけ、事故・違反があった場合は報告し、記録に残す。	安全担当者	○	○
水資源	生活排水、洗車時の節水。	ECO推進者	○	○
紙資源	購入枚数を把握する。	事務担当者	○	○
	コピー用紙の失敗枚数の削減。	事務担当者	○	○
	両面使用の徹底。	事務担当者	○	○
	機密文書の取り扱い。(シュレーター、焼却)	事務担当者	○	○
	使用済み用紙をリサイクル施設へ搬入。	衛生担当者	○	○
グリーン購入	エコマーク商品の購入	ECO推進者	○	○
	リサイクルしやすい物の購入	ECO推進者	○	○

理由、原因

工場の中間処理を返納した為、人員を配置転換し、(人員減少)購入電力を大幅に削減できたが営業所で12月～3月のエアコンの温度並びに風量管理ができず購入電力があがってしまった。またコピーの失敗枚数については極力削減できた。FAXも自動受信ではなくプレビューをみて必要ないものはプリントアウトせず削減に繋がった。

引き続き環境意識を高め、削減していきたい。

一般廃棄物関係

当社排出分を把握する。管理者を設置し、分別をしっかりとっていく。

管理者を設け、管理開始

- ・1週間に1回処分場へ搬入する前に、当社排出重量並びに排出枚数の測定をする。
- ・缶についてはスチールとアルミに分別する。
- ・ビンについては色分けをして処分場へ搬入する。
- ・ゴミに関しては、紙類はリサイクルし、それ以外のものは焼却する。

上記の項目は全員が対象であり、管理者がチェックし、記録を残す。

産業廃棄物関係

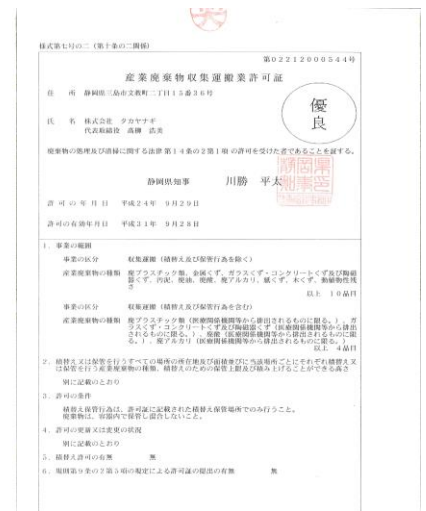
容器包装リサイクル法に基づき、再生樹脂で作った容器を使用する。弊社で使用している感染性廃棄物用ペール缶は再生樹脂 100%である。再生樹脂でできた感染性廃棄物用ペール缶の使用率は約 90%である。昨年と比べ使用個数は増加したがバージン容器の需要も



あった為、全体の割合は減増加した。残りの 10%の事業主様にもリサイクル容器を進めていきたい。また容器の内側に入れるビニール袋もリサイクル製品に変更。従来は焼却処理だった廃棄物をビニール袋にリサイクルし、排出事業者に戻す循環型リサイクル。焼却処理によって排出する CO2 の削減に努めている。

「優良認定」

エコアクション 21 取得（環境配慮の取組）条件の産業廃棄物優良認定を取得した。これにより国立の入札案件等に参加できるようになったり、許可更新が 7 年になったり、メリットが出てきた。まだ静岡県の収集運搬の産廃、特管の 2 種類が優良であるが、神奈川県、愛知県、東京都等順に取得していきたい。



4-2 環境活動の取組結果の評価

1) 二酸化炭素排出抑制

① 購入電力 半年間 9月 (評価:○) 1年間 3月 (評価:×)

エコアクション 21 に取組み、前年同様、消灯時間を設定し、冷暖房の設定温度を設定したが営業所では購入電力を削減することができなかった。昨季の冬の寒さで暖房器具の使用が増えた為である。全体的に下がったのは工場を廃止した結果により購入電力が減少した。

② 化石燃料 半年間 9月 (評価:△) 1年間 3月 (評価:△)

平成 29 年度は 28 年度に比べ軽油は 4.8%、ガソリンは 0.2%削減できた。軽油は目標を達成した。もっと環境意識を高め次年度も削減に努めていきたい。

③ 排水量の削減 半年間 9月 (評価:○) 1年間 3月 (評価:○)

本年度は年間排水量が 75%減少。これは工場を廃止したことが大きな要因であるが、営業

所単体でも 21.9%削減できた。節水の環境意識を高め削減できた。引き続き節水を心掛けていきたい。

2) 廃棄物の排出量の抑制 半年間 9月(評価:○) 1年間 3月(評価:○)

当社排出分を正確に把握する。廃棄物の抑制およびリサイクルの徹底を図る。

4-3 次年度の取組

「購入電力」

- ・空調設備の設定温度 暖房 21 度、冷房 28 度とする
- ・不必要な照明は消す
- ・使用していないパソコンの電源を落とす
- ・19:30 には消灯し、帰社するように努める
- ・クールビズ、ウォームビズを積極的に取り入れる

「化石燃料」

- ・アイドリングストップを徹底する。 ECO ドライブを心がける。

「排水量の削減」

- ・節水に努める
- ・洗車時にこまめに水を止める

「廃棄物排出量の抑制」

- ・リサイクルできるものは可能な限りリサイクルにまわす
- ・缶はアルミ缶とスチール缶に分別をする
- ・ビンは色別に分ける
- ・エコマーク商品を積極的に購入する
- ・リサイクルしやすいものを購入するようにする
- ・ビニール袋をなるべく自社製品にする。
- ・マイバック、マイハシなど、小さな努力も、おしまないよう教育する
- ・紙ゴミはなるべくシュレッダーにかけ、資源リサイクル業者へ搬入する。

「優良認定の取得」

- ・神奈川県産廃・特管の収集運搬の優良取得
- ・東京都産廃・特管の収集運搬の優良取得
- ・愛知県産廃・特管の収集運搬の優良取得

5. 環境上の緊急事態の想定結果及びその対応策

産業廃棄物収集運搬時の緊急事態対応計画書

1. 本計画書は産業廃棄物収集運搬時の事故等により環境上の緊急事態の対応を定める。
2. 未然防止対策及び緊急時への準備
 - ・ 安全運転ミーティングを行い、日頃から安全運転を心がける。
 - ・ 万が一のために備え、消火器等を車両に積んでおく。
 - ・ 事故後に「想定される事故」を日頃より検証。
 - ・ 「KYT」・事故報告書・安全会議・適正検査・運転簿の書類管理をし、記録、定期的を確認、評価している。
3. 事故時の対応
 - ・ 速やかな応急対策
速やかに安全な場所に車両を止め、二次事故を起こさないようにする。
事故時に相手がいる場合は、速やかに相手に声をかけ、怪我等の把握をする。
 - ・ 関係機関へ通報する。
4. 会社へ通報する。
 - ・ 速やかに会社へ通報し、運行管理者の指示を仰ぐ。
5. 緊急事態の対応後の手順
 - ・ 運行管理者および管理責任者は、措置終了後、事故の概要を当事者に事故報告書を記入させ、保管する。
事故報告書の記載事項
発生日時・場所
事故の概要
その他考えられる事故
防止策
 - ・ 運行管理者及び管理責任者は、事故後安全運転ミーティングを開く。
 - ・ 安全運転ミーティングの内容を記録に取り、保管する。
 - ・ 「絶対に事故を起こしては、ならない」、「車は、凶器」である事の理解を従業員全員に植え付ける。乗車する前に、「本当にこれでいいのか？」と問い掛けをするように教育している。

安全、環境教育等の記録

実施年月日 平成 29 年 11 月 17 日

時 間 17 時 30 分 ~ 18 時 30 分

場 所 沼津営業所

実 施 者 常務取締役 平 田 豪

安全教育の内容		
産業廃棄物の適正処理		
紙マニフェスト		
電子マニフェスト		
環境配慮への取組		
アイドリングストップ		
購入電力について		
出席者氏名	出席者氏名	記 事
深沢 泰子 (深沢)		
佐藤 舞子 (佐藤)		
高杉 千叶 (高杉)		
後藤 強 (後藤)		
釜谷 陽介		
石井 修 (石井)		
小野 貴靖 (小野)		
芳賀 喜浩		
長谷川 智		

6. 環境関連法規の取りまとめ及び遵守評価

環境関連法規の遵守状況、訴訟の有無については下表の通りである。

法律	法的な要求事項	手続き	内容	確認者	確認日	遵守	評価
環境基本法	一般的な自主努力			常務	3/30	○	○
循環型社会形成推進基本法	3Rへの努力		廃プラ→ビニール	環境管理担当者	3/30	○	○
資源有効利用促進法	リサイクル等への協力		パソコン、ビン、段ボールペットボトルの廃棄物	ECO推進者	3/9	○	○
家電リサイクル法	指定場所への廃棄		エアコン、テレビ、冷蔵庫、冷凍庫、洗濯機の廃棄	ECO推進者	3/9	○	○
グリーン購入法	環境物品の購入		事業者は一般責務	事務担当者	3/30	○	○
廃棄物の処理及び清掃に関する法律	・産業廃棄物収集運搬許可 ・特別管理産業廃棄物収集運搬許可	処理基準遵守		常務	3/30	○	○
		許可の更新	各県許可申請	社長	10/31	○	○
		変更時の届出	各県変更許可申請	社長	10/31	○	○
		契約書の締結/保管		事務	4/28	○	○
		マニフェストの確認処理	B2票を10日以内に事業者へ送付	事務	随時	○	○
		マニフェストの保管	B1票・C2票の5年間保管/管理	事務	3/30	○	○
		年間報告	毎年6月に報告	事務	5/31	○	○
		県外搬入届出書	毎年3月に届出	事務	4/28	○	○
		廃棄物の悪臭・飛散防止	保冷車使用	常務	3/30	○	○
		投棄禁止	不法投棄禁止	常務	3/30	○	○
道路運送車両法	・法定点検		定期点検、車検	安全担当者	3/30	○	○

条例など							
三島市条例	・一般廃棄物 収集運搬許 可	許可の更新	三島市許可申請	社長	10/31	○	○
		変更時の届出	三島市変更申請	社長	10/31	○	○
静岡県産業 廃棄物の適 正な処理に 関する条例	産業廃棄物処 理の委託先の 実地確認・記 録・保管	委託契約締結 前受託者の現 地確認	確認の結果を記 録	常務	3/30	○	○
		契約後、毎年1 回以上の処理 状況の確認	確認の結果を記 録	常務	3/30	○	○
		処分場視察記 録保管	5年間の保存	事務	3/30	○	○
訴訟の有無	無			社長	3/30	○	○

以上

7. 代表者による評価と見直し

「環境目標に対する評価」

①二酸化炭素排出抑制

購入電力は、今年度営業所のみだったが、冬期の購入電力が増加した。

今後は前年度を基準に具体的にいかに削減できるかを従業員と協力して実行していきたい。
軽油使用量は昨年比で4.8%減少しガソリンも0.2%減少した。売上が1.4%増加したが、
燃料は削減できたことからエコドライブの意識があがってきている。

全体的に目標は、達成出来ていないものもあるが、昨年度より排出抑制は、出来た。

②排水量の削減

排水量は昨年より75%減少した。沼津工場を廃止した為、かなりの削減になった。営業所
だけでも21.9%削減できた。節水の心掛けの結果である。引き続き個々に意識して環境と節
水のバランスを維持する。

③廃棄物の排出量の抑制

平成29年度は、従業員の分別する意識が徹底されて、さらに細分化した分別ができた。ご
みを出すという意識も勿論、物を持ち込まないという意識も高めていき、今後も、同様に
分別、リサイクルを徹底していく。

このような取組事項を「環境経営システムの運営体制」に則り環境管理責任者へ指導していく。

「平成 29 年度エコアクション 21 の取組を終えて」

平成 29 年度は、売上が 1.4%上がり前年度より増加したにも関わらず二酸化炭素の排出量を削減できた。アイドリングストップやふんわりアクセルを取り入れたり、日々の意識が結果に出たと思われる。

日々の生活、仕事の中で自分達が今何が出来るかを一人一人が意識し考えていくよう日常から「地球環境の配慮に関する教育」を促していく。

平成 30 年 4 月 1 日

株式会社タカヤナギ

代表取締役 高柳 浩美

8. 外部からの苦情等の受付結果

平成 29 年度は、苦情等の受付はありませんでした。